

9 中学校用「山桜」 指導例

本資料は、桜の名所で有名な吉野山をモチーフに、吉野山の桜の品種である山桜を自分と重ね、自分の弱さを克服し逆境を乗り越えようとする主人公の姿を描いている。多くの中学生にとって主人公の姿や悩みは等身大であり、主人公のものの見方や考え方の変容を共感をもって受けとめることができるであろう。

資料では、父が主人公へ伝えたい思いを、山桜が「自分らしくあるために、自分の花を咲かせる」という比喩表現に象徴している。学習展開では、この言葉をキーワードとする話を設定したい。さらに、そのことが今も「わたし（主人公）をずっと支えている」ことの意味について考えさせることで、自己の弱さを克服し、人間として精一杯生きることの大切さや喜びに気付かせ、よりよく生きようとする意欲を高めたい。

- ◆ **主題名** 自分らしくあるために 指導内容 3-(3)
- 資料名** 山桜 (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ ねらい

主人公のものの見方や考え方の変化、父が主人公に伝えたかったことなどについて考えたり話し合ったりすることを通して、自己の弱さを克服し、人間として精一杯生きることの大切さや喜びに気付かせ、よりよく生きようとする意欲を高める。

◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、吉野山の桜について話し合う。	○ 吉野山の桜を知っていますか。 ・毎年家族で花見に行っている。 ・シロヤマザクラという品種だとは知らなかった。	・自由に話し合わせ、資料への興味・関心を喚起する。	
展 開	2、資料「山桜」を読んで話し合う。	○ 部屋に閉じこもった「わたし」はどんなことを思っていたでしょう。 ・やっぱり自分には才能がないんだ。 ・これ以上バレーボールを続けるのは辛い。やめたい。 ○ 人知れず咲く山桜を見たとき、「わたし」の胸にこみ上げ	・部活動での体験などを出し合い、努力が報われなかったという主人公の悔しさや自分に才能がないと思う悲しさなどに共感できるようにする。 ・山深くだれも見ることがなくても毎年花を咲かせてい	

